

2019年度 第5回運用容量検討会 議事録

日 時：2020年2月14日（金） 13：30～15：00

場 所：電力広域的運営推進機関（豊洲ビル）会議室C及び広域本番会議室A（TV会議）

出席者：

- 阿彦 幸一（北海道電力株式会社 送配電カンパニー工務部系統運用グループリーダー）
- 上石 晃（東北電力株式会社 送配電カンパニー電力システム部給電グループ課長）
- 福元 直行（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
- 甲斐 静治（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部系統技術グループ課長）
- 山下 益功（北陸電力株式会社 送配電事業本部電力流通部系統運用チーム統括課長）
- 沢井 一智（関西電力株式会社 送配電カンパニー系統運用部系統技術グループチーフマネージャー）
- 神田 光章（中国電力株式会社 送配電カンパニー系統技術グループマネージャー）
- 正岡 寿夫（四国電力株式会社 送配電カンパニー系統運用部給電グループリーダー）
- 中澤 雅明（九州電力株式会社 送配電カンパニー電力輸送本部電力品質グループ長）
- 飯塚 俊夫（電源開発株式会社 流通システム部変電・系統技術室総括マネージャー）

事務局

- 石井 幹也（電力広域的運営推進機関 運用部長）
- 田治見 淳（電力広域的運営推進機関 運用部担当部長）
- 大川 修司（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 田中 孝明（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 岡部 泰一郎（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 奥山 孝幸（電力広域的運営推進機関 運用部）

配布資料

- 1-1 2020～2029年度の運用容量（年間計画・長期計画）算出における主な見直し事項
- 1-2 2020～2029年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）
- 1-3 各連系線の運用容量算出方法・結果
- 1-4 設備停止時の運用容量について
- 1-5 系統安定化装置更新に伴う関西中国間連系線の運用容量見直しについて
- 1-6 関西四国間連系設備の運用容量制約の公表について
- 1-7 2020年度・2021年度 連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダー
- 1-8 運用容量を休日相当として扱う日について～2020年度・2021年度～

議題 1：2020～2029 年度の運用容量（年間計画・長期計画）算出における主な見直し事項

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

事務局から資料 1-1 の説明後、議論を行った。

- ：東北東京間連系線（東京向）の運用容量は昨年度算出分より増減はあるものの、これは想定される電源の運転状況の変化によるものであり、スライド 2 にある通り算出方法見直しによる影響はほとんど無いとの理解でよいか。
- ：その理解でよい。
- ：スライド 2 の中部関西間連系線作業時の中部北陸間交流連系について、計画外作業やその他の理由により交流連系を実施しないこともあり得る。
- ：承知した。

議題 2：2020～2029 年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

事務局から資料 1-2 の説明を行った。

質疑無し。

議題 3：各連系線の運用容量算出方法・結果

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

事務局から資料 1-3 の説明後、議論を行った。

- ：スライド 26 について、「電制後の周波数低下に伴う発電機出力増（GOV 制御）・負荷減少（周波数特性）の影響を考慮する」とある。これは電制を実施した場合、供給力が減少し周波数が低下するが、発電機のガバナフリー機能により発電機の出力が増加するため、実際に系統に与える影響は電制により遮断した発電電力より少なくなることを計算に含めているものである。熱容量制約に電制を織込んでいたのは東北東京間連系線（東京向）のみであることから、他の連系線の運用容量算出とは無関係であるが、今後、熱容量制約に電制を織込む場合は、平仄をあわせこのような考え方を採用することでよいか。
- ：それでよい。
- ：東北東京間連系線に関して、昨年度は南相馬バンクや新福島バンク停止時の熱容量制約についての記載を当資料に記載していたが、設備停止時に関する内容であることから、今年度より資料 1-4 に記載することとした。

議題 4：設備停止時の運用容量について

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

事務局から資料 1-4 の説明後、議論を行った。

- ：スライド 22 について、母線停止・充電操作時において短工期対策を中断することがあるとの事であるが、短時間の操作においても短工期対策を中断する必要があるのか。

- ：一般的に、作業後のトラブルを考慮すれば停止操作よりも充電操作にリスクを伴う。
- ：広域系統整備委員会での整理通りの運用のほかに、停止操作時は短工期対策を維持し、充電操作時のみ短工期対策を中断できないかについて検討している。
- ：承知した。

議題5：系統安定化装置更新に伴う関西中国間連系線の運用容量見直しについて

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

中国電力から資料1-5の説明後、議論を行った。

- ：電圧電制とはどのような機能か。
- ：電制で東向き潮流を減少させることで、無効電力ロスの低減を図り電圧安定性を維持するものである。

議題6：関西四国間連系設備の運用容量制約の公表について

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

四国電力から資料1-6の説明後、議論を行った。

- ：スライド5において、発電機が停止している状態で南阿波幹線欠相故障が発生すると、共振により過電圧が生じるとのことであるが、これは阿南紀北直流幹線の潮流が大きいとSCが多く投入されるため、事故時に共振しやすいという事か。
- ：その通り。近傍に大容量発電機が並列している場合、短絡容量が大きくなり過電圧を回避できる。

議題7：2020年度・2021年度 連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダーについて

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

事務局から資料1-7、1-8の説明を行った。

質疑無し。

以上